

「いいだ未来デザイン2028」令和元年度戦略の評価についての意見交換の内容（第1班）

いいだ未来デザイン会議委員からのご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する回答
<p><基本目標1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる></p> <p>【外松委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して働けるというのは何を言うのか。働きやすい環境が安心なのか、戦略からわからない。 <p>【沢委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅の名前を先に考え、人を引き寄せるイメージを付けることが必要である。交通革命により、飯田市は中長期滞在に向く対象地として発信できる。 <p>【山科委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期の目標は発展性がある。 ・前期で整備したエス・バードで、さらに機能を拡大して、飯田の産業に付加価値がつくよう中心的な役割を担うということだと受け取った。どのような活用を幅広く行うことができるか、具体的に示していく必要があるのではないか。 ・売り手と買い手を結びつける機能が必要。水引産業ではコロナの影響を受けて大きな構造変化が生じている。既存の販売ルート以外の開発に期待したい。 ・基本目標には「地域が潤い、誰もが働きやすい産業をつくる」としてはどうか。 <p>【林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ戦略内で、地域産業の「持続的な成長」と「事業転換」を併記しているため、内容が変わっているように受け取れる。 ・エス・バードは、整備は完了という認識でよいか。現状では、産業分野が偏っていると思われる。今ある機能の活用だけでなく、新たな整備もあるとよいと考える。 <p>【高橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光分野でいうと、水引産業が観光インフラとしても大きな影響を受けている。事業転換というより、うまく形を変えながらマイナーチェンジする発想を与えられるような施策を念頭に持っていくという捉え方だと思う。また、具現化していく方策も必要である。 	<p>【遠山部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エス・バードの機能の活用等とし、幅広く、様々な分野で関係機関と連携を高めて取り組んでいくという考えを示している。 <p>【塚平部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援策など個別な事業は年度戦略で位置づけていく。 <p>【遠山部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県と計画した整備は完了となる。D棟については今後の検討となる。前期に計画した整備は完了しているため、中期では機能アップを図っていくという考えによる。

【大西委員】

- ・ 結構違和感がある。「稼ぐ」という言葉が出てきた背景。「魅力ある産業」とは誰にとって魅力があるのか。若者が全ての基本目標にかかっていると返ってこようとする若者が魅力あると思う、という受け止めでよいか。
- ・ 盛り込みすぎ、という印象を受ける。産業の選択肢を増やす、など今あるものを、形を変えながらマイナーチェンジをしていく、必要に応じて少しずつ変えていくという方がよい。
- ・ 稼ぐことが第一の個人は減っている感覚がある。地域が稼ぐことを指していて、個人が稼ぐことでないならば、表現に工夫をしてもよいのではないか。

<基本目標2 ①飯田市とのつながりを築き、飯田市への人の流れをつくる
②関係人口を増やし、飯田市への人の流れをつくる>

【沢委員】

- ・ 基本目標1の繰り返しになるが、ネーミング、キャッチコピーが必要と考える。
- ・ 学輪 IIDA のシンポジウムでも飯田は何でも都合がいいまちとあったが、反面、特徴がない。飯田だからこそできる産業を研究するための研究会を立ち上げてほしい。発信というよりも、地域の中での思想合わせが、人口ビジョンの達成には効果的ではないか。

【外松委員】

- ・ 飯田市とのつながりを築くとは、誰とのつながりを意味するのか。
- ・ 関係人口と交流人口の違いが、別途の説明がないとわかりにくい。
- ・ 中心拠点では、中心市街地活性化計画のアクションプランで、多くの人や組織の関わりによる活性化を表すのであれば、「より多くの人や組織の関わりを得て、中心市街地の魅力をさらに磨き、交流を増やします。」というような表現となるか。

【高橋委員】

- ・ 関係人口はここ5、6年。交流人口はもう少し以前からある。こういう言葉を目標に掲げるのはどうか。普遍的な表現がわかりやすいと思う。

【山科委員】

- ・ 中期計画で、観光の戦略が書かれていない。人の流れがクローズアップされているが、その内容をよくよく考えると、飯田市のブランドではないか。住みや

【遠山部長】

- ・ 「稼ぐ」とは、地域活性化プログラムの昨年の検討の中で、労働生産性を上げ、付加価値を高めるという分析をしている。国の方針でも「稼ぐ」という言葉が出てきているが、そのみならず、所得が地域で働く魅力の一つという考えである。
- ・ 担い手は若者だけでなく、様々なライフステージで飯田市にいらっしゃる、様々の世代の皆さんが地域で働くことを示している。

すさ、これからの交通網などのインフラ向上、教育のレベルの高さ、エコ登山や天龍峡など観光の魅力である。それを発信することで、人の流れをつくるということではないか。戦略にこのことが書かれている方がいいのではないか。そういう考え方からすると、飯田市の魅力を発信して、人を惹きつけることを表現した方が、自然に人が流れてくるイメージができると思う。

- ・基本目標には「磨きをかけた飯田市の魅力を発信し、ひとを惹き付け、ひとの流れをつくる」としたらどうか。

【林委員】

- ・魅力をつくりという表現は、今ある魅力か、新たに作る魅力を指しているのか。中心市街地の今ある魅力をどう捉えているのか。
- ・移住定住の分野では、前期に実際に移住してくださった人の想いを反映しているのか。必ずしも行政支援のプロセスを経ている方だけでなく、水がおいしいとか、その人なりの魅力を感じて移住されている方もいる。

【高橋委員】

- ・飯田市では車で10分圏内に、都市の人々がお金と時間を投じて見に来る自然や景観がある。さらに、それが10年前と変わらず残っている、ということに感動した経験があった。移住のきっかけとなった地域の魅力が、今も守られていくことも重要である。

【大西委員】

- ・先ほど山科委員からあった、魅力を発信、という言葉は出した方がいいと思う。
- ・もともとある魅力を、掘り出して、磨き、守り無くさないことを加えると分かりやすいと考える。
- ・基本目標2に限らず全体に関わるが、前期の基本目標は、中期の基本目標は、塗り替えられていくのか。前期の基本目標を見ながら、中期の基本目標を考えている。このプロセスを経て、中期の基本目標を見たときに、失われてよい言葉があってよいか、と感じるところがある。なんとなく消えていった言葉があると勿体ないのではと思う。

<基本目標13 リニア時代を支える都市基盤を整備する>

【外松委員】

- ・リニアに関連した道路整備は、関連施設等の等に含まれるか。

【遠山部長】

- ・魅力づくり、には、新たなものばかりを指しているのではない。今ある資源を磨き上げるという意味合いを含む。中心市街地においてもそうで、目に見えるものも、イベントなどで醸成されてきたソフトなつながりも魅力として捉えている。

【塚平部長】

- ・前期の目標を置き換える、という考えである。

- ・リニア駅周辺やアクセス道路沿いなどに新たな民間による開発行為が考えられるが、その対応は全市的な土地利用に含まれるのか。
- ・飯田のスマートシティがどういうものを指すのかは明示されているか。この文章を見ると既に明確化されており、その為のAIやIOTの活用を研究すると読める。公共交通やスマートシティの検討がこれからとすれば、“AIやIOTを活用した新たな公共交通やスマートシティの構築を研究し、具現化を図ります。”としてはどうか。
- ・新型コロナウイルスへ効果的に対応とあるが、予防への対応か。コロナ対応については、4年間かけるものではないと思うので、現在の新型コロナウイルス以外の物も含める表現とした方がいいと考える。

【高橋委員】

- ・戦略の3件はそのとおりと思う。
- ・4件目の「市民や来訪者等の利便性向上や、新型コロナウイルスへ効果的に対応するため、デジタル化や新技術活用などの地域情報化に取り組みます。」については、上記3件の戦略を実行する際の効果や目標と感ずるため、とくに戦略に入れずともよいと考える。

「いいだ未来デザイン2028」令和元年度戦略の評価についての意見交換の内容（第2班）

いいだ未来デザイン会議委員からのご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する回答
<p>＜基本目標3 “結いの心”に根ざす教育を实践し、 豊かな心とリニア時代を生きる力を育む＞</p> <p>【西村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のトイレについて、和式から洋式へ改修を進めているということだが、トイレの改修を早急に行っていただきたい。 <p>【永井委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しむ、楽しむという視点を入れていただくとよい。 <p>【三浦委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の分野で必要と思われるものは、◆の8つの中に盛り込まれていると思う。 ・安心して学べる学級作りというのは、学級という単位だけでなく、学校という単位で見てもよいと思う。 <p>【中田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの時代は学校給食や読書という視点が大切なので、盛り込まれていてよい。 ・関係機関の連携ということで、学校と図書館の連携は全国的に見ても珍しいと思うので、チャレンジな面もあるが取組を進めていただきたい。 <p>【前島委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育・平和学習といったことも小戦略に入れていただきたい。 ・外国籍児童へのケアを大切にしていきたい。小戦略に入れていただきたい。 <p>＜基本目標4 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、 飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む＞</p> <p>【中田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から高校まで体系立てた学習ということは飯田ならではのと思うので、 	

取組に期待する。

【永井委員】

- ・環境学習、ふるさと学習というところでは、経済の視点も必要だと思う。

【西村委員】

- ・竜丘地区の鷲流峡プロジェクトのように地域と行政一体の取組が進められていると考えている。

【中田委員】

- ・地域に課題がある中でその課題の解決方法を考えることが学びになると思う。

<基本目標5 文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる>

【西村委員】

- ・やまびこマーチや人形劇フェスタなどが、今年は中止になってしまったので来年は開催できることを望む。
- ・文化会館の建設にあたっては、駐車場や収容設備など中途半端なものではなく、大規模なものをお願いしたい。市内には県立のものがほぼないので、文化会館は県立でもいいのではないか。

【中田委員】

- ・全市型競技別スポーツスクールで子どもの受け皿が広がるとよい。

「いいだ未来デザイン 2028」令和元年度戦略の評価についての意見交換の内容（第3班）

いいだ未来デザイン会議委員からのご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する回答
<p><基本目標6 結婚・出産・子育ての希望をかなえる></p> <p>【全委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な方向性はおおむね良い。 <p>【大沢委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代背景を踏まえて「若い世代」の記載を削除した点については、当会議でも出された意見であり方向性としては良いと思う。 <p>【松村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この分野に関しては、コミュニティと地域への受け込みや支え合いが重要になる。そういった観点から戦略（考え方）に記載されている「地域の見守りの中での子育て」に集約されているため、この方向性で良いのではないか。 <p>※施策等への参考意見</p> <p>【佐々木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での子育てとなったが、市民からは孤立を感じたとの声が多かった。 <p>【佐々木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里帰り出産等、飯田で産んだ方へのフォローがもっとあっても良かったのではないか。 <p><基本目標7 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす></p> <p>【全委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な方向性はおおむね良い。 <p>【松村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略（考え方）に記載されている「市民、地域、行政等の多様な主体が一緒になって役割を發揮し」の<u>役割を發揮し</u>という言葉使いが重い印象を与えているのではないか。 	<p>【清水健康福祉部長】</p> <p>結婚、出産についての時代背景である晩婚化を考慮し、前期計画で使用していた「若い世代」という言葉を除くこととした。</p> <p>【清水健康福祉部長】</p> <p>議会からの提言で「生涯現役」より「健康長寿」という言葉を使ってみてはという意見をいただいたが、健康という言葉が「市民総健康」と重なることと、「生涯現役」という言葉は、人生において現役、すなわち元気で長生きする「健康長寿」と意味合いが同じであるため、これまで使用してきた前期を継続することとした。</p> <p>【清水健康福祉部長】</p> <p>多様な主体が自らの役割に自覚を持ち、地域コミュニティの中で実施する健康づくりが、これまで以上に重要になってくることを表現している。</p>

※施策等への参考意見

【松村委員】

- ・若い人の健康にももっと目を向けていく必要がある。

<基本目標8 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる>

【全委員】

- ・基本的な方向性はおおむね良い。

【大沢委員】

- ・コロナ対応で「地域共生社会」といった新しい視点が出てきたが、コミュニティや共助の大切さを改めて実感させられる言葉であり、福祉分野はこの言葉に集約されるものである。

<基本目標12 災害や社会リスクに備え、社会基盤を強化し、
地域防災力の向上を図る>

【全委員】

- ・基本的な方向性はおおむね良い。

【全委員】

- ・コロナに限定せず人為的な災害も含めて「社会リスク」と表現した点と地域が一丸となって対応していかなければならない方向性を「地域防災力」と表現し、記載した点については現状の課題と今後の方向性に重要なワードが記載されており、方向性としては良いのではないかと。

【佐々木委員】

- ・戦略（考え方）については、自助・共助を支援する環境整備に取り組むとあるが、この記載方法だと環境整備がメインに伝わってしまう。ここでの目的は地域防災力の向上なのではないかと。

※施策等への参考意見

【全委員】

- ・コロナに対する意見として、差別や誹謗中傷への対応、災害時の防災拠点のマネジメントや市民へのケアまた、避難所の個別の開設方法の周知の必要性など各委員から意見が出された。

【清水健康福祉部長】

議会からも方向性はおおむね良いのではないかと意見をいただいております、前期を継続することとした。

【田中危機管理室長】

- ・前期は地震や防災を意識していたが、コロナ禍を踏まえて「社会リスク」という言葉を加え、感染症やそこから発生する弊害に備えるということを目指す。道路や水道等のハード整備に関しては、◆戦略の考え方で社会基盤の強靱化として示している。

「いいだ未来デザイン 2028」令和元年度戦略の評価についての意見交換の内容（第4班）

いいだ未来デザイン会議委員からのご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する回答
<p>＜基本目標9 20地区が輝く生き活きた地域づくりを地域主体で進める＞</p> <p>【下平委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域経営」という言葉には収支を伴う地域活動というイメージを持っている。将来を考えると無償ボランティアではなく、正当な報酬が得られるような仕組みが重要と考えている。それにより地域内で経済が循環できることが理想だと思うが、「地域経営」という言葉にハードルの高さが感じられていたので見直しの考え方は良い <p>【森下委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治組織の役員は任期があることで無責任になってしまうところがある。まちづくりはボランティアという感覚が強く、それでひいてしまう人が多い。仲間づくりという視点での取組が大事。 <p>【本田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状のまちづくり委員会や公民館の活動に、地域の特色を活かした活動が生まれることは素晴らしいことだが、それは大きなことを求めるのではなく、もっと絞り込んだ実践や小さな取組が重要という視点から、ハードルを下げて取組を促す考え方は大切。 <p>【福岡委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の一部の人が負担を担っている現状が課題。賃貸住宅の住民や若い世代にどう地域のつながりを維持していくかが大切 <p>【石神委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総花的ではなく、必要なものを抑えた上で、20地区それぞれが特徴を出していくような小さいもので競争を生み出していくことが重要。 <p>＜基本目標10 個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる＞</p> <p>【石神委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直近の課題として、今後の移住が増える可能性が高い中で、世代間、生活観、 	<p>【松下市民協働環境部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば千代地区の社会福祉法人やNPO法人の設立などの事例があるが、コミュニティビジネス的なものだけではなく、地域づくりには様々な団体や取組方法がありと認識しており、全体支援をしていく。

仕事や目的など全てが多文化と捉え、移住者が地域に入ることによって地区内の相乗効果が期待できる。訪れる移動の時代をうまく対応していくことが重要。それを20地区で競い合う波及効果も大切。

【本田委員】

- 人口減少時代において、リニアに乗って飯田にくる必然性を作ることを前提としたら、多文化共生（ダイバーシティ、社会マイノリティー、異文化）の許容範囲の広いまちという土台があれば強みとなり、そのキーワードを表に打ち出していくことは効果的と思う。その意識、懐の深さをこの目標が高めていくことに期待している。

【竹村委員】

- 移住者や異文化を受け入れていくことは重要だが、そのためには仕事があるということが重要。都会からの移住は仕事があるという前提があることを抑えることが必要。

【福岡委員】

- 仕事は大切。働き方の考えが多様化し、移住しながら都会で働くというケースもあり、それが実現できる環境（ネット環境など）を整備していくことは重要。

【石神委員】

- 昔は職住接近ということで、仕事があるところに人は住むだったが、最近は住職接近というケースも出てきている。仕事を持って移住してくるという人をターゲットにしていくことも大事。

<基本目標11 地球環境への配慮が当たり前のまちづくり>

【福岡委員】

- 21' いいだ環境プランでも「もったないない」というニュアンスが取り上げられているので良い表現だと思う。
- 低炭素、二酸化炭素などの言葉使いが散乱している。◆にある「二酸化炭素の排出」という言い回しは再検討されたい。

【石神委員】

- 飯田全体でもっとも売りになるテーマと思う。「配慮」は気分という捉えではな

【松下市民協働環境部長】

- 最近の移住者の傾向として、明らかに若年世代が増えており、昔からこの地に住み続けてきた方との価値観の違いもあると思う。互いを理解し、地域の中で融和を保ち、もともと住んでいる人と移住した人が共に暮らしていく視点での共生のこの目標の中に位置付けていく。

【松下市民協働環境部長】

- 環境配慮に関する表現、言い回しについては、ご指摘のとおり整理したい。

く、行動していくことが重要。

- CO2削減でいうと、産業、交通、生活の3点に対して、考えるだけでなく CO2を出さない自主的な行動に結び付くような指標等を整理することも重要。
- 飯田の地域の200億円分のエネルギーが流出しているという話もあり、それを地域自給することも配慮の要素に含めていくことも有効。